

第21回リバーフロント研究所研究発表会

企画グループ サブリーダー 渡邊 由美

平成25年9月13日(金)、月島社会教育会館(東京都中央区)にて「第21回リバーフロント研究所研究発表会」を開催しました。

本発表会は、当研究所の河川や湖沼、海岸などの水辺に関し、健全な水循環系の再生、災害に強靱な都市の形成、川を活かしたまちづくり、自然環境の保全と利用、河川生態の保全や再生、景観形成などに関する調査研究の成果を発表し、広く活用していただくことを目的に、年1回「リバーフロント研究所報告」の刊行にあわせて開催しています。今年も21回目の開催となり、国土交通省や自治体関係者、学識者等、120名あまりの方々にご参加いただき、活発な意見交換がなされました。

発表会には、東京都市大学の涌井史郎教授をお招きし、「水際をいなしの叡智から再評価する。ー環境革命の時代に対応してー」と題してご講話いただき、その後、昨年度当研究所で実施している研究成果から次の7題について発表を行いました。

○発表内容

1. 高規格堤防整備の推進方策について

要旨：移転方式、民間との連携に着目してコスト縮減・工期短縮に資する方策の検討。高規格堤防の治水効果以外の効果、超過洪水対策としての代替案の選定・定量評価手法についての検討。

2. 貞山運河再生・復興ビジョン検討

要旨：運河群を基軸とした仙台湾沿岸地域の再生・復興のために、未来へ継承するべきものや、目指すべき目標および方向性についての検討。

3. 円山川水系自然再生計画～激特事業完了後の計画見直し

要旨：激甚災害特別緊急事業が平成22年度に完成したことを契機とし、治水、利水上の機能を考慮しつつ、河川における豊かな自然環境の保全・再生・創出を図っていくために作成した計画について、これまでの事業の実施状況や環境モニタリング調査の分析評価の検討。

4. 柿田川における特徴的な生物の生活史とその課題

要旨：柿田川ではほぼ年間を通してオオカワヂシャが生育、繁殖していることが明らかとなってきた。柿田川におけるオオカワヂシャの生態に加え、柿田川の水域に生息する魚類、底生動物に関する調査結果の検討。

5. 河道内樹木の定量的評価基準と管理手法の検討手順作成

要旨：過年度に実施された樹木群の治水・環境・

維持管理の各面からの総合評価を踏まえ、実際の管理を行う際の空間スケール(ゾーン)及び定量的な評価基準について設定し、ゾーンごとの樹木の状況を評価。さらに、モデルとなるゾーンにおいて具体的な管理手法についての検討。

6. 太田川放水路における河口干潟の生態工学研究

要旨：太田川生態工学研究会でのこれまでの研究成果を踏まえ、太田川放水路の河口干潟の形成・変化に関する総合的な評価の検討。

7. 水循環解析技術に関する研究

要旨：一級水系千代川流域をケーススタディとして、表流水・地下水を一体に取り扱える水循環解析モデルを構築して現状の水循環構造を把握するとともに、将来の気象状況を踏まえた地下水の変化を試算し、モデルの有用性、解析精度に係わる検討。

今回の発表内容を含めた平成24年度の調査研究成果「リバーフロント研究所報告 第24号」は、当研究所ホームページ「リバーフロント研究所報告」(<http://www.rfc.or.jp/rp/index.asp>)にてダウンロードが可能ですので、是非ご活用下さい。

皆様からいただいた様々なご意見を踏まえて、今後も河川に係る諸問題への調査研究等を通じて社会への貢献に取り組んでいきたいと考えております。



涌井教授のご講話



会場参加者との意見交換